

A. 日 時 2013 年 8 月 6 日 (火曜日) 18 時 00 分～20 時 00 分

B. 場 所 本会会議室

C. 出席者 松本主査 他 11 名

D. 提出資料

No. 14-00、第 13 回居住性能評価指針検討 WG 議事録 (案)

No. 14-01、衝撃回数に関する考察

No. 14-02、居住性能評価指針検討 WG 資料

No. 14-03、振動の時間に関する要因が及ぼす人の応答への影響の評価について

E. 審議事項

1. 議事録確認

資料 14-00 「第 13 回居住性能評価指針検討 WG 議事メモ」について

※ 前回委員会議事録内容の確認

→ 承認された

※ 新規委員等

→ 今回より委員 1 名追加

→ また、オブザーバーも 1 名追加

2. 議論

A) 資料 14-01 「衝撃回数に関する考察」について

※ 実験時間 30 秒程度までにおける振動継続時間・衝撃回数の影響

→ 衝撃回数によって影響があることは自明ではあるが、その影響度合いは研究によって異なる

→ 時間的なパラメータを加味した評価が必要と思われる

B) 資料 14-02 「居住性能評価指針検討 WG 資料」について

※ 人間の反応、評価と高い相関の得られる振動の物理量を探るための検討

→ 振動レベルの最大値と認知大きさ尺度との相関は高い (ただし同じ振動が繰り返される場合はその限りではない)

→ 気になり具合と振動レベルの相関は上記よりも高くはないが、継続時間に関する物理量を取り込むことにより相関関係の向上を望める可能性もあり

C) 資料 14-03 「振動の時間に関する要因が及ぼす人の応答への影響の評価について」について

※ 知覚閾について

→ 時定数を検討する必要あり ($\tau = 250\text{ms}$ を提案)

→ 快感と継続時間を加味した振動の影響の関係は、加速度 (a) と継続時間 (t) とすると $a^2 \cdot t$ (r. m. s. 評価) よりも $a^4 \cdot t$ (r. m. q 評価) の方がより依存性が高い

※ 振動の継続時間 (数分まで) の影響について

→ 継続時間が長くなると不快感は増す傾向になる

→ ただし、その継続時間が長くなると不快感増大の度合いは小さくなる

※ 繰り返し回数の影響評価

→ こちらも rms よりも VDV 評価の方が適切と思われる

3. 次回以降の課題

※ 時間影響について

→ 代表者三名でデータ解析手法に関して検討するのはどうか?

※ 視覚情報の影響

→ 室内什器のゆれ、人体の視覚知覚

※ 知覚閾以上の振動

→ 生理反応、行動/作業障害

次回の当委員会は、10月31日(木曜日)18時00分より本会会議室で開催します。

資料を提出される方は、あらかじめ準備(15部)されるか、もしくは2日前までに本小委員会のオンラインストレージまでアップロードお願いいたします。